

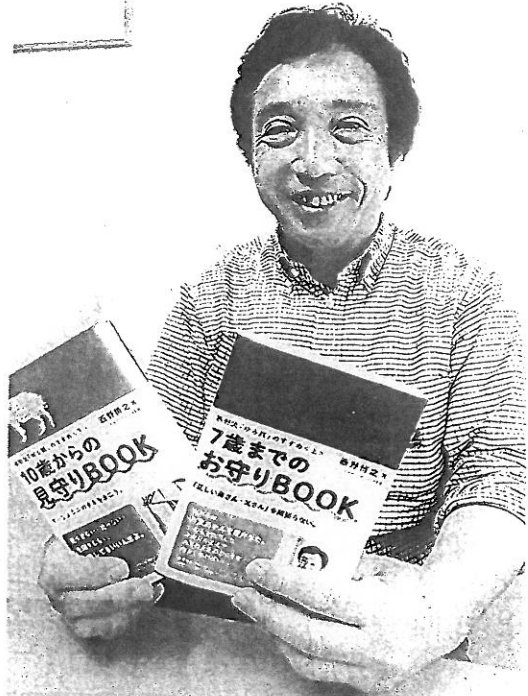
川崎市で不登校の子どものためのフリースペースを運営している西野博之さん(左)が、子育て中の父母に向けた二冊を出版した。親の不安や過干渉

が子どもを追い詰めているとして、「失敗してもいい。正しい母さん、父さんを頑張らないで」と「ゆる親」となることを勧めている。(安藤恭子)

「人と比べない」「不登校の先にも道」

頑張らず、ゆるる親で

川崎で支援施設運営
西野さん子育て本



「もっと子育てを楽しもう」と提案する西野さん＝川崎市で

「存在そのものを認めて」

西野さんは三十年近くで、延べ二千人以上の子どもたちと関わり、今は屋外の遊び場とフリースペース機能を併せ持つ公設民営の「川崎市子ども夢パーク」の所長を務める。

本は、乳幼児の親が対象の「7歳までのお守りB

OK」と、思春期の親に向けた「10歳からの見守りBOOK」。スマートフォン時代の若い親でも読みやすいように、横書きで短い言葉にまとめた。七歳までの本は「子どもを人と比べない」「もっと大丈夫」とほほ笑みかけ

て安心させよう」と提案。十歳からの本は「子どもの反抗期は、自己主張期」「不登校の先にも道はある」と指摘し、子どもの人生で必要な時間を受け止める大切さを伝えている。「運動も勉強もできる子になってほしい。友達は多

い方がいい。かわいくないとかだめ……。この十年で情報化や少子化が進み、子どもの評価を気にしすぎる親が増えている」と西野さん。「完璧でなければならぬ、という親の強迫観念が過干渉を生み、子どもに『自分はだめだ』と思わせる。『生きているだけでいい』と存在そのものを認めてあげてほしい」と語る。

川崎市で今年二月、不登校だった中学一年の男子生徒が少年らに殺害された事件にも触れ、「助けを求められる存在として、私たち大人は認められていなかった」と自戒を込めて記している。

本はいずれもB5判、千二百円(税別)。問い合わせは発行元のジャパンマシニスト社フリーダイヤル(0120)965344へ。